

JTPA の海外展開活動

1. 国土交通省都市局の海外展開活動への協力

- H.22.3 第 1 回 海外展開情報交換会 (国交省都市局と協会会員企業との情報交換会)
- H.22.5 第 2 回 海外展開情報交換会
- H.22.12 第 3 回 海外展開情報交換会
- H.24.5 第 4 回 海外展開情報交換会 (最終)
- H.24.7 第 1 回 都市交通システム海外展開研究会
- H.26.2 第 2 回 都市交通システム海外展開研究会
- H.27.1 第 3 回 都市交通システム海外展開研究会
- H.28.3 第 4 回 都市交通システム海外展開研究会

2. 対象とする都市交通システム

- (1) 新交通システム (AGT)
- (2) 次世代型路面電車 (LRT)

3. 研修生招聘活動

一般財団法人海外産業人材育成協会 (HIDA) の協力の基、AGT の研修を実施。

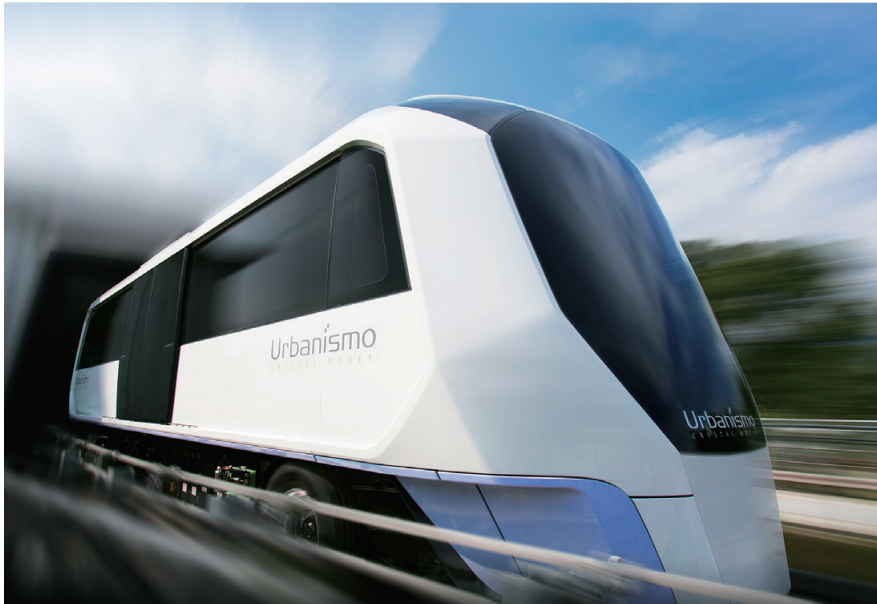
- (1) インドネシア・チカラ複合都市 AGT 建設計画に係る研修
 - H.24.11 インドネシア中央政府、地方自治体職員など 10 名
- (2) ケニア・モンバサ都市鉄道建設プロジェクト AGT に関する研修
 - H.26.1 ケニア中央政府、モンバサ県知事、県職員など 12 名
- (3) カンボジア王国プノンペン都 AGT 建設プロジェクトに係る研修
 - H.27.1 カンボジア中央政府、プノンペン都副知事など 10 名

4. 国土交通省主催の都市交通セミナー開催協力

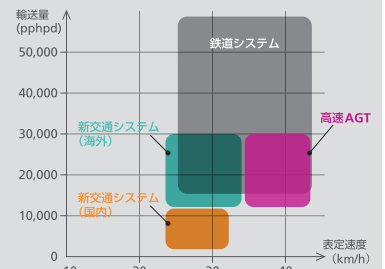
- (1) H.26.1 マニラ (フィリピン)
 - 参加者 : 130 名 (フィリピン側 : 85 名、日本側 : 45 名)
- (2) H.27.8 プノンペン (カンボジア)
 - 参加者 : 185 名 (カンボジア側 : 133 名、日本側 : 52 名)

第4回都市交通システム海外展開研究会 高速AGTで説明資料

三菱重工株式会社
交通輸送ドメイン 交通機器事業部



〈高速AGTの適用範囲〉



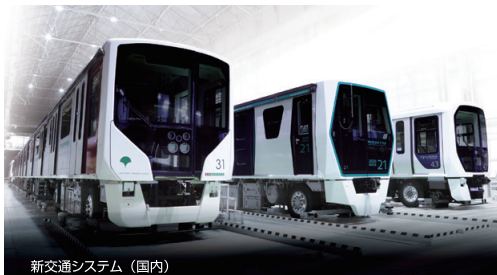
■高速AGT

従来の新交通システムは、駅間距離の比較的小さい都市内の交通手段として用いられてきたが、「高速AGT」では、新しく開発した高速台車により、最高速度120km/h走行が可能になり、従来より速達性を向上させた都市交通の計画が可能になる。

120km/h

■新交通システム (国内)

国内の新交通システムは、輸送量10,000pphp以下、表定速度24-32km/hの範囲で10路線が稼働している。最高速度は60km/hで10路線のうち6路線が全自動無人運転を行っている。



新交通システム (国内)

■新交通システム (海外)

三菱重工では海外向けに国内の新交通システム車両の約1.5倍の輸送量を持ち、30,000pphp、表定速度35km/hの範囲をカバーする車両を提案している。海外向けは最高速度を80km/hまで上げ、すべて全自動無人運転対応となっている。



新交通システム (海外)

■高速AGTの諸元

高速AGTは、海外向け車両と同じ大きさの車体と高速台車を組み合わせたもので4両編成ロングシート仕様の諸元は下表の通り。



車両諸元

■ 編成長	48.6m	■ 編成定員	約290名
■ 車体長	約2.8m	■ 最少曲線半径	30m
■ 空車重量	約15t	■ 最大勾配	100‰

■開発に関する今後の動き

現在、広島県三原市の和田沖工場内のMIHARA試験センターにおいて高速AGTの120km/hの実証試験走行路を建設中で、本年3月末には完成予定である。高速AGTは、日本での導入実績はないが、今後、都市内だけでなく都市近郊路線への適用を提案する計画である。



MIHARA 試験センター